2019年1月23日発行　石鹸日用品新報より記事抜粋　　平成31年ペット関連業界賀詞交歓会

ペット関連7団体

「ペット関連業界の更なる発展を目指す」

全国ペットフード・用品卸商協会、全国ペット協会、日本観賞魚振興事業協同組合、日本小鳥・小動物協会、日本ペット用品工業会、ペットフード公正取引協議会、ペットフード協会のペット関連7団体は、1月10日、東京・西新宿のヒルトン東京で、「平成31年ペット関連業界賀詞交歓会」を開催。400名を超える業界関係者が来場した。

石山会長

会は、ペットフード協会・相馬薫事務局長の司会で進行。初めに、ペットフード協会・石山恒会長（マースジャパン リミテッド副社長）があいさつに立ち、「昨年実施した『全国犬猫飼育実態調査』の結果は、犬の飼育頭数は890万3000頭（前年比1万7000頭減）、猫は964万9000頭（12万3000頭増）となり、昨年に続き猫の飼育頭数が犬の飼育頭数を上回った。

特に犬については、2010年～18年の8年間、約25%飼育頭数が減少し、これに比例するかのように犬フードの生産量も約29%減少した。

犬の飼育頭数の減少要因を調べると、06年の動物愛護管理法の法改正の後、ブリーダーの数が相当減少し、それに伴い、ジャパンケネルクラブに登録されていた犬の数が10年間で約42%減少した。その他にも避妊・去勢手術をする犬の数が増えたことや、少子高齢化による社会構造の変化が減少要因として挙げられる。

一方、猫については、飼育頭数は10年前と比べて1万頭減少しただけで、この10年間大きな変化がない。しかし、市場には少し変化があった。特に猫おやつの登場により、猫フードは重量ベースで13・7%伸長した。

ペット関連業界の更なる発展のためには、犬、猫の飼育頭数を増やしていかなければならないと考えている。

春先に動物愛護管理法の第4次改正が予定されており、業界としての風向きはあまり良くないが、この業界を発展させていきたいので、今後とも皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げる」と述べた。

続いて、農林水産省生産局畜産部飼料課・犬飼史郎課長、環境省自然環境局総務課動物愛護管理室・長田啓室長、日本獣医師会・境政人専務理事の来賓祝辞、関連団体紹介の後、全国ペットフード・用品卸商協会・森光栄一理事による乾杯発声で開宴。

盛宴となり、最後に、日本ペット用品工業会・赤津功一会長（トーラス会長）が「この10年間でペットを飼ったことがない人は全体の56%いると言われている。この数字を限りなく0に近づけていくのが我々の使命である。そのためにもペットの飼育対象は犬、猫だけでなく、観賞魚、小鳥、昆虫、小動物、昆虫類もいることをしっかりと伝え、ペット全体の飼育数を増やしていくことが肝心だと考えている」と述べ、同氏の中締めで散会となった。

赤津会長

名香 ●猫月 大阪 慶賀堂